事例No.	2638
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	山形県立置賜農業高等学校「豆ガールズ」

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・教育・子育て

事例種類	地域資源の活用

事例内容・タイトル

山形県立置賜農業高等学校「豆ガールズ」

出典

平成29年度ふるさとづくり大賞事例集

山形県立置賜農業高等学校「豆ガールズ」　山形県川西町

概　　要

少子高齢化や次世代流出が続く山形県南部の川西町では、伝統野菜の紅大豆を中心とした豆栽培や豆の伝統料理継承を地域再生の推進力とする構想を描いていた。しかし、豆農家や食文化継承者の高齢化、紅大豆の販売不振などの理由で、栽培面積や生産量の激減回避や豆の食文化継承が喫緊の課題となった。このプロジェクトは、この状況に危機感を感じた地元農業高校の女子生徒とまちおこしに取り組むＮＰＯ法人「えき・まちネットこまつ」が域学連携を図り、まちなか再生や産業振興、そして過疎対策にも資する取組みである。



評価された点

・地域づくりにおける地元高校の役割は大きい。地域の資源を戦略的に展開する上での効果的連携のお手本と考える。「屋根のない学校」というコンセプトは他地域の範ともなるべき活動。
・高校生の活動を民間法人がサポートする好事例。活動により生産販売が伸び、大手メーカーから引き合いがあるなど、実質効果に結びついている。
・地元の高校生とＮＰＯが連携して、特産品の開発、ＰＲ活動、豆を中心にした食育活動や料理講座などによるまちなか再生を成功させている。活動の成果は町内にとどまらず、県内外にまで広がりを見せており、今後も長期的な発展が見込まれる。まさに「屋根のない学校」で、地域の力が若い世代を育み、地域全体の活性化にもつながる価値あるプロジェクトであり高く評価される。
・農業高校の生徒がまちづくりに取り組む事例であり、地域の伝統野菜を活用した商品開発や高校生ならではのアイデアで幼小中学生への食育に取り組んでいる点がユニークである。また、参加した高校生の80%近くが地元に定住している点から、地域に愛着を持たせることにもつながっている。
・種目を問わず「ものづくり」に長けている山形。これまでも丁寧なものづくりが評価されてきているが、新しい時代にこそ、かつての伝統食文化を新しい視点からアピールしていく活動は、多くの地域ファンづくりに即効力のある手立てでもある。
・これからの時代高校生の活躍が地域にとって大きな影響を与える時代になってきた。地域住民がバックアップしてサポートすることも原動力になってきている。新たなモデルとして評価できると思う。
・高校単位のまちづくり活動は時代のニーズであり、数多くの事例があるが、「豆」に特化し、コンセプトも明確、地域内外への発信も上手く出来ている。

